

■ 通巻第3号



冊子名 薬-ひこばえ-第2号  
発行日 2013（平成25）年1月1日  
筆者名 杏里、霧谷 のあ、篠崎蓮、縹色、野生のペット、  
祐凧、ゆうや  
頁数/発行部数/サイズ 60頁/30部/A5版  
主な内容 三行詩・文芸詩・俳句・短歌・散文・反省文  
発想練習 ①さいきん～⑳ける  
特別企画 『さきがけの杏里さん』

印刷所 キンコーズ店頭複合機

装丁 手製本（ホチキスによる中綴じ、特殊紙カラー印刷、トレペ遊び紙）

販売価格 150円

備考 この号より巻頭詩を既存作品から個人作品（霧谷のあ）に変更。  
文芸詩を作家別から作品別に戻す。編集は、霧谷のあが担当。

レイアウトについて

- ・今まで一番良い。散文が詠みやすい。文字サイズが読みやすい。散文が読みやすい。
- ・表紙の手触りが良い。
- ・短歌がじっくり読めない、同じような作品が並んでいるように見える。  
→短歌の文芸同人誌・教科書等を開いてレイアウトを学ぶよう努める。  
→本屋で歌集などを見てみるとか。（二段組廃止）※画期的なレイアウト募集!!
- ・「携帯依存症」が過激すぎる。作品自体は禁止しないが、配置が見えやすく、三行詩全体の暗さにつながった。

作品について

- ・巻頭詩「鼓動」、情景が浮かびにくい。
- ・三行詩の連作について。「良い連作とは何なのか？」  
→連作になっているものには、共通に使われるワードがあり  
共通でない部分がいかに対応しているかで、良作かどうか決定している。  
例) 勉強・勉強その2・勉強その3（さきがけ創刊号より）  
良い連作を考える事は、単品で三行詩を考えるよりも難しいかも？
- ・「携帯依存症」が過激すぎる→三行詩は、短いからこそ過激なワードがよりダイレクトに伝わってしまう。※自分で書いてる内は、自分の作品が過激だと気づきにくい
- ・文芸詩が良かった→「レイン メモリー リフレイン」「カラブロック」「漕げ」等
- ・詩「漕げ」のインパクト（これは詩なのか？）
- ・桶屋コメントがいまいち盛り上がらなかった。→野生のペット氏の各解答を横読みすると「サケノミタイサケノミタイ…」になっているのにツッコミなし。
- ・特別企画がいまいちだった。→質問そのものが長く、回答も長い。

大反省会（3）

なるべく3行以内に終わらせられる課題を作る

・サキガヒコバエンも読みやすくなって良かった。読もうと思える冊子になっていた。

**その他**

特になし